



なるとうこども園が完成・開園しました。

いりぐち広場



集いの場



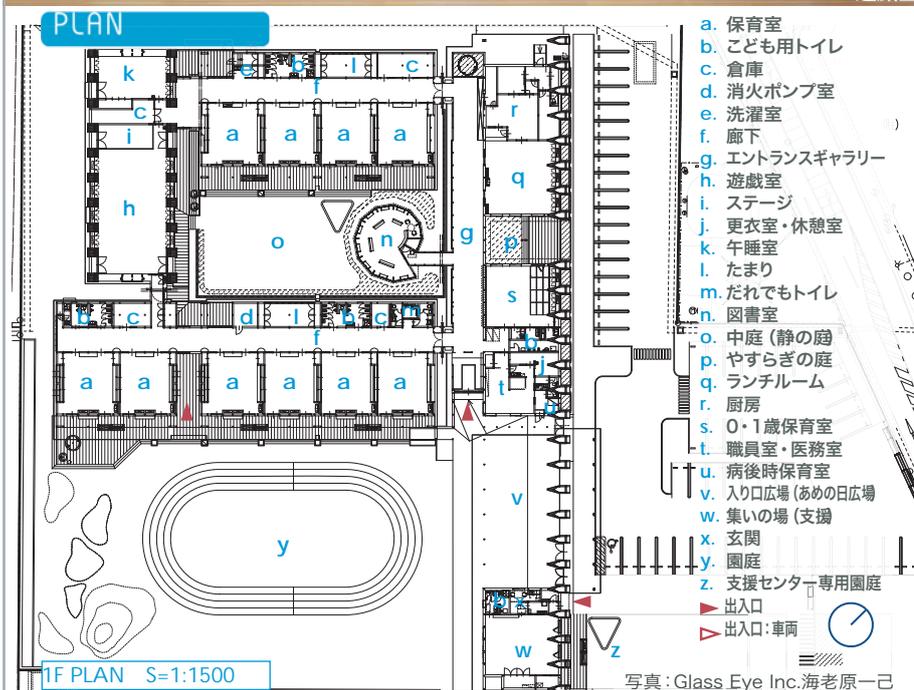
図書室天井



保育室



遊戯室



CONCEPT

「地場産山武杉」を積極的に活用した2,800㎡の在来軸組み工法

なるとうこども園は認定こども園制度に基づき、旧成東幼稚園と旧成東保育所を施設統合した新設こども園です。敷地は山武市本庁舎に程近い市内の中心地域であり、定員は240名の市内最大のこども園となります。

既存園舎が木造平屋であったことから地場産材(山武杉)を積極的に活用し、木質のやさりとぬくもりのある保育環境を実現するとともに、地元林業・木材産業の振興等にも配慮した事業を目指しています。庁内関係部局との協議により、木材の部分的な先行発注・現場材料支給を試みています。

設計上は、「地場産山武杉を活用した木造架構」をコンセプトに、JAS認定材でない小径木の山武杉を最大限活用できる架構体としました。2,800㎡の施設を4寸材(120mm角)を基本とした在来軸組み工法で計画している点が特徴的です。木材利用促進法の施行後、拡大が見込まれる木造建築需要に対して、地場産材を公共建築に活用する重要なモデルケースと位置づけています。

DATA

敷地面積	: 12,195.26㎡
建築面積	: 3,669.51㎡
延床面積	: 2,785.81㎡
建ぺい率	: 30.09%(許容60%)
容積率	: 22.48%(許容200%)
構造・規模	: 木(在来軸組み工法)、一部S 地上1階、地盤改良
最高高さ	: 7.50m(保育室棟)
軒高	: 2.78m(保育室棟)
天井高	: 4.05m(保育室棟平均)
主なスパン	: 7.2m×9.0m(保育室棟) 3.6m×12.6m(遊戯室棟)
設計期間	: 2010.09~2011.03
工事期間	: 2011.12~2013.02
構造設計	: KAP(空間工学研究所)

TOPICS

こども同士が育てあう、異年齢交流の仕掛けと幼・保連携

幼保間の連携や異年齢交流を重視し、こども同士が相互に育てあう保育環境を実現するため、回遊動線のある平面計画としました。随所にクラスを超えた遊びが実現可能な「たまり」を配置し、アート展示やコーナー保育の充実を図っています。



座れる本棚のあるたまり

▶ <http://www.nissoken.co.jp>